

ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森県立むつ養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で 記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input checked="" type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	「わたしたちはもっとできる！」(技能検定・発表会 パフォーマンス分野発表)		
	単元(題材)の目標	自発的に視線を動かし、大きなスクリーンいっぱいに描画する。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	高等	部	1 年 1 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	車椅子で座位を保持した状態で、可動域の範囲で左右に両腕や頭を動かす。また、画面を注視し、意図的に視線を動かすことができる。医療的ケア（喀痰吸引、胃ろうによる経管栄養）を要する。		
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称	Tobii Eye Tracker 5、miyasuku スタンド、液晶プロジェクター、PC (Windows10)		
	使用したアプリケーションの名称	EyeMoT Sensory (センサリー) のペイント機能 (無料ソフト)		アプリマーク
	主な活用の用途 (✓又は■で 記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input checked="" type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input type="checkbox"/> 学習支援 (<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援)		
	ICT活用のねらい	対象生徒は、PC画面上の画像や対象物を注視し視線を動かせることがわかったため、視線入力機器を活用すれば、視線の動きにより様々な操作や表現が可能になるのではないかと考えた。 また、液晶プロジェクターを活用し、描画の経過を大きなスクリーンにライブ投影することで、多くの人に本人の表現活動（パフォーマンス）を伝達できると考えた。		
活用の状況と支援	県の技能検定・発表会の発表に向けて、8名のパフォーマンスチームの一員として表現活動に取り組んだ。視線入力機器による描画では、当初は視覚のアセスメントや視線入力評価ゲームなどの活動を行った後、視線入力によるペイントアプリの活用に取り組んだ。教師が対象生徒の姿勢や頭の位置を調整したり、専用スタンドを用いて画面に視線を合わせやすくしたりすることで、対象生徒の視線の動きの精度が高まり、ICT機器による描画制作への意欲や達成感を高めることができた。 発表の当日は、校内の多くの児童生徒が参観するなかで、高等部生徒8名がパラシュートバルーン、メッセージ発表、書道パフォーマンスなどの表現活動を繰り広げた。対象生徒は全体の活動に参加した後、視線入力機器による描画表現を見事にやり遂げ、その作品はステージ上のスクリーンにライブで投影された。教師は車椅子の移動や機器設定のみを行い、描画活動の様子を見守った。			